

あじさい 139号

「八女ぼんぼりまつり」へ行ってきました!



今年の育成会恒例のバスハイクは、実施日の3月3日にふさわしく、福岡県八女市の「八女ぼんぼりまつり」に行ってきました。ひな人形の生産地でもあり、提灯の産地でもある八女市では1か月にわたり「八女ぼんぼりまつり」が開催されています。白壁の街並みに映える色とりどりの衣装をまとったひな人形と下げ飾りが町を彩っていました。



長崎よかよか隊出動!!



昨年春結成された障害理解を広めるためのキャラバン隊「長崎よかよか隊」が出動要請を受け、長崎医療こども専門学校で社会福祉士を目指す学生さんたちに障害のある人たちの生きづらさの疑似体験をしていただきました。

もくじ

- 頑張ってます!
キャラバン隊
- 定例会発「親心の記録」
- 育成会60年の歩み②
- 育成会ing
- きらり&全国大会報告
- バスハイク&アート作品展
- お知らせ

頑張ってます！「長崎よかよか隊」

発達障害や自閉症を含む知的障害者や障害特性の理解を広めるためのキャラバン隊「長崎よかよか隊」は昨年の春に産声を上げ、これまでに7回出動の機会をいただき、学校の先生や相談支援専門員、中学生、専門学校生、育成会会員の方々に体験していただきました。特別支援教育のプロとも言える学校の先生に対して行ったときは緊張で固くなり、中学3年生に行ったときは、反応の薄さに理解してくれたかどうか不安になりましたが、いただいたアンケートには手応えを感じる内容が綴られており、安心しました。もともとは一昨年にお招きした広島のおび隊からいただいたデータをもとに長崎版を作製したのですが、活動と並行してミーティングを重ね、長崎版オリジナルの「Aくんのいちにち」を作るなど、さらに理解しやすくするために工夫を重ねています。

アンケートより

- ・障害のある方々の「生きづらさに寄り添う」ことを学校現場でも教えていかないといけないと感じた。(教師)
- ・私たちが普通に1日過ごしていることを、障害のある子どもたちはその1日を過ごすだけでも大変なんだと思った。(中学生)
- ・障害のある人への意識が、最初何も学習していない時と変わった。(中学生)
- ・自分の子を育てながらも、本人のことがよく理解できてないことが改めて分かった。(育成会会員)
- ・少しでも生きづらさを理解してあげられる支援員になりたいと思う。(事業所職員)
- ・今まで知的障害の話は聞いたことがあったが、実際体験をすることでどのように接していけばいいか理解しやすかった。(専門学校生)

3月12日(火)に東京で開催された全国手をつなぐ育成会連合会主催『共生社会の実現に向けて 障害者理解を全国に広めるための「啓発キャラバン隊」づくり研修会』に「長崎よかよか隊」からも参加させていただきました。全国より100名程が集まり、会場は熱気に包まれていました。全国で活発に活動をされているキャラバン隊が講師となり、活動内容の紹介やどのようにして活動を広げていったかなどを話されました。確実に結果を出している各地のキャラバン隊の様子を伺いながら、結成して何回か出動したものの「長崎よかよか隊」の活動を広げるためにはまだまだ足りないと感じました。また、どうすれば学校に広げられるかの方法やキャラバン隊がなぜ必要か、その役割などの話もあり、全国手をつなぐ育成会連合会としてもこの活動に強い期待を寄せていることがひしひしと伝わる研修会でした。

隊員募集！

「長崎よかよか隊」では、この活動に参加して下さる隊員を募集しています。話をするだけでなく、企画やお手伝いなどいろいろな役割がありますので、興味のある方はタイムケア事務局へご連絡ください。

☎ 845-5677



伝わらない、分からないもどかしさを体験する「ゲナ帝国」のプログラム。(育成会フォーラム)

定例会発

親なきあとの「親心」

昨年より会員定例会では、障害のある子をもつ親たちが、親なきあと子どもを支援してくれる方々に子どものことを知ってもらい、子どもが安心して人生を全うできるようにという思いで作成された「親心の記録 支援者の方々へ」の記入を5回シリーズで行ってきました。必要であることは分かっている



もなかなか個人で準備するのはハードルが高いものですが、「親心の記録」というノートに書かれた項目にわが子のことを書きこんでいだけという気軽さもあり、みんなで話し合いながら楽しく完成させることができました。

「本人の情報」には療育手帳の保管場所や健康保険証、受給者証の番号などを記入しました。緊急先リストには、本人の兄弟姉妹をはじめ、参加者の多くが母親だったためか、ご自分の姉妹、義姉を挙げられていました。「医療機関や利用施設」は、一目でわかるように、かかりつけの医師や服薬の有無、飲ませ方、利用施設の連絡先やスタッフ名も記入できるようになっています。そこに相談支援事業所を書き込んでおけば、本人の利用施設や平日、休日の状況もすぐ分かり、本人の現状や将来を含めて本人や親の思いを知っている、親亡き後の要となる機関だという声が多く聞かれました。「1週間の生活スタイル」と「日常生活の様子」ではそれぞれ”自分流”の

生活パターンをお持ちで、バラエティに富んだ生活スタイルに感心するばかりでした。「コミュニケーションや社会性」では、親だからこそわかるその人なりのコミュニケーションの回り方を、第三者に伝えるという重要性に改めて気付かれたようでした。「親として支援者に伝えたいこと」では、好みや生活習慣などからどんな人生を送ってほしいかまで、箇条書きにしながらか伝えたいことがたくさんありました。

「健康」については入院の手続きや介護や延命措置など気の重くなるような項目が並んでいました。親なき後も本人が好きなことを諦めず、楽しみながら生活できることが親としての切実な願いです。障害があっても豊かな生活の質を求め、親亡き後も出来るだけ充実した生活をコーディネートしていただけるように、この冊子をわが子の支援に役立てたいと言われていました。この冊子を監修された渡部伸さんの研修会『障害のある子の親が知っておきたい「親なきあと」』を4/13（土）開催予定ですが、さらに参考になることや今後のヒントがいただけるかもしれませんね。

記入する項目
本人の情報
医療機関・利用施設
1週間の生活スタイル
日常生活の様子
本人の好きなこと
コミュニケーションや社会性
移動や外出
親として支援者に伝えたいこと
子どもの健康、その後の対応
支援マップ

シリーズ全て参加された宮坂季代さんの感想

どう伝えればいいのか迷いながら書きましたが、ほかの方の話が参考になり足りないところを付け加えることもできました。本人の老後など考えると辛い部分もありましたが、みんなで話をする事によって前向きな気持ちになれたと思います。書きながら現在の息子の状態も見直し、どのような支援が必要か考えるよい機会にもなりました。将来の為にという気持ちでしたが、すぐに活用できるので、周りの支援者の方に伝えていながら、定期的に見直して、状態により変更や付け加えたりしていきたいと思います。記録の必要性は感じていましたが、なかなか一人では取り掛かることができなかったので、今回定例会がよい機会となり完成できて本当に良かったと思います。

育成会は60周年!

60周年を
振り返る②

育成会の60周年を振り返る企画の第2回目は「生活支援センター」について取り上げます。昨年、大橋への事業所集約に伴い本部機能と他の福祉サービス機能を持つ総合的な事業所として育成会生活支援センターがオープンしました。これは平成13年に当時の山内理事長が最初の在宅5か年計画の中の長期行動計画として挙げられていた「生活ヘルプセンター」が元となっていますが、そもそもどのようなものだったのでしょうか?

施設入所が主流で「地域で暮らす」ことは非常に困難な時代を経て、徐々に障害があってもみんなといっしょに暮らすことが幸せであるという地域福祉の考え方が広まり始めた平成12年の広報あじさい26号には、当時の理事長山内氏が前年に参加されたセミナーの報告会開催の記事が掲載されています。



『生活ヘルプセンター』ができればいいね!

(前略) 理事長を囲んで「地域生活支援は入所施設を越えられるか」というテーマのもと、長野市で行われたセミナーの参加報告会を開きました。出席者40名、お菓子とお茶を目の前にしても皆一様に緊張して、初めての話し合いに臨んだ意気込みが伝わってくるようでした。誰にとっても関心の高いテーマであったことが伺えます。(中略) そして私たち育成会が地域生活支援として始めた「生活ヘルプ事業」が、今後本人たちの自立を助け地域での暮らしを支えられる「生活ヘルプセンター」にまで成長できたら、未来にもっと希望が持てるのではないかと思います。(広報あじさい26号より抜粋)

「地域生活支援」の勉強会はカセットテープに録音したセミナーの講演を、みなさんで聴いたりしながら勉強を続けられたようで、地域生活支援に対する熱い思いが伝わってきます。また育成会が独自に始めた「生活ヘルプ」という事業は障害のある人たちが地域で生活するためにサポートを行うものでした。それを発展させた「生活ヘルプセンター」は本人の外出や通院、送迎の支援、相談支援、緊急時の対応など、本人が地域で安心して暮らしていくための基地のようなイメージだったようです。(右図は当時の広報紙に掲載されていた会員のみなさんのニーズ)

現在では各自治体で障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能(相談、緊急時の受け入れ・対応、体験の機会・場、専門の人材の確保・養成、地域の体制づくり)を備えた地域生活支援拠点など、生活を地域全体で支えるサービス提供体制の構築が急がれています。



育成会 ING

～～ケアホームさくら短期入所(ショートステイ)棟完成間近～～

現在、三京町にあるケアホームさくらの短期入所(ショートステイ)棟の増築工事も終盤を迎え、まもなく完成となるところです。今後のスケジュールは、下記のとおりです。

- 平成30年12月1日…工事着工
- 平成31年4月9日…工事完了予定
- 平成31年4月中旬開所予定

平成31年4月から

～陽香里工房就労B型事業が生活介護事業に統合されます～

平成24年に生活介護事業と就労継続B型事業の多機能型事業所として開所した陽香里工房ですが、この数年の利用者の高齢化や重度化などの実態を鑑み、その状況に必要な支援は何かを考えてまいりました。そこで平成31年4月から新しい体制として、生活介護事業はエンジョイ班として、旧就労B型事業はワーキング班として班分けをし、様々な活動を取り入れて、生活介護事業のみでのスタートとなります。定員は40名に変更して、これまで取り組んできました発達障害のある方への支援をより充実させ、事業所内環境をさらに整え、また、職員体制の強化を図り、サービスの質の向上を目指してまいります。引き続き、一層のご支援ご協力をお願いいたします。

平成31年3月から

～ハートセンター事務局の勤務時間が変わります～

ハートセンター事務局は担当山口となり、勤務時間は次のように変わります。

月、水、木、金の10:00～15:00(火曜日は不在)です。

ただし、変更になる場合もありますので、御用の方は電話などで事前にご連絡いただくと助かります。

センター事務局 ☎095-847-1290

ある本人さんとお別れ

先日あるご本人が亡くなりました。私もお参りに行かせていただきましたが、そのご本人は93歳の方で、親御さんが亡くなられた後、ごきょうだいや甥御さん家族で支えられてきたそうです。長い間ご本人を支えていただいたこと、また会員として育成会も支えていただいたご家族に心から感謝を申し上げる次第です。

育成会事務局も若い世代に代替わりし、昔からの会員さんの情報に精通している事務局が少なくなりました。今回の訃報はご家族からのご一報があり私たちも知ることができたのですが、育成会の会員さんやその子弟の情報など、仲間の皆さまからのご一報がいただければありがたいことだと思います。事務局もできる限りの配慮は致しますが、皆様のご協力どうぞよろしくをお願いいたします。(理事長 谷 美絵)

き ら り



今回のきらりは、今春鶴南特別支援学校時津分校を卒業し4月から社会人として新たにスタートを切る野澤宏斗さんをご紹介します。

卒業後の進路先は？

つくもの里です。

新しい進路先での目標

まずはお仕事に慣れて、丁寧に作業をしたいです。場に応じた挨拶ができるようになりたいと思います。

お母様からの一言

中学部から6年間時津分校にお世話になりました。宏斗も母も素晴らしい仲間に出会えて良かったです。高等部では皆勤賞をいただきました。新しい環境でも楽しく通うことができたらいいな。これからも宏斗らしく過ごしてほしいです。

宏斗さん！ご卒業 おめでとうございます。

京(みやこ)から
ほほえみあふれる
新しい未来へ

育成会全国大会開催！

第5回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会京都大会が2月23～24日、京都市で開催され、長崎市育成会からは本人12名を含む、保護者、職員合わせて22名が参加しました。

冬の京都と言えばとても寒いイメージでしたが、天候にも気温にも恵まれ、到着日の清水寺観光では抹茶のソフトクリームを買って食べる姿が見受けられました。会場となった国立京都国際会館では、家族・支援者向け、本人向け計11の分科会が開催され、大きな会場は全国から集まった本人や家族、支援者の熱気で包まれました。

本人分科会は時間で3分割されており、最大3つの分科会に参加できるように工夫されていました。また、全体会では長崎市育成会評議員で前県育成会会長の甲田裕さんが、長年の功績に対し会長表彰を受けられ、表彰状を受賞されました。次の全国大会は今年の11月に熊本県で開催されます。

家族・支援者分科会	「教育・療育」	つなぎたい！これからの教育と地域福祉！
	「はたらく」	みんなが笑顔で「はたらく」ために
	「高齢期」	高齢期になったらどうなるの？どんな準備がいるの？
	「暮らし」	みつけよう、はじめよう、自分らしい暮らしを！！
	「権利擁護」	知的障害者の理解促進と権利擁護
	「きょうだい」	本人の想い・親の想い・きょうだいの想い・きょうだいの会
本人大会分科会	はたらくトーク	みんなで話し合おう～はたらく～
	生き方トーク	みんなで話し合おう～本人活動～
	ぶっちゃけトーク	みんなで話し合おう～権利と障害～
	手作りワーク	“ものづくり”を通していっしょに楽しもう
	音楽・踊ろう	音楽に包まれて素敵な笑顔に出会いましょう
観光	観光 A	平安神宮神苑と東映太秦映画村
	観光 B	世界遺産”金閣寺 “と東映太秦映画村

八女ぼんぼりまつりへ行ってきました

3月3日（日）に春恒例のバスハイクが実施され、参加者96名で「八女ぼんぼり祭りと白壁の街並み散策」に行ってきました。行きは雨が降っていましたが、日ごろの参加者の皆さんの行いのよさか八女滞在中は雨も上がり、傘を持たずに散策できました。八女民俗資料館にてバスを降りた後3つのグループに分かれ、現地ガイドさんに案内されておひなさまめぐりに出発しました。お雛様とお内裏様が一体ずつ箱に収められた八女独特の箱雛や、江戸、明治、大正、昭和の時代をあちこちに感じる白壁の街並みを巡りました。町のあちこちでトイレが利用できるようになっており、少し肌寒い中でも安心して散策できました。1時間もの散策後は、八女



ずらりと並んだひな人形は圧巻

茶がふんだんに使われた土産物の吟味に物産館は大盛況で、八女茶のソフトクリームには長蛇の列ができていました。大正時代から続くという料亭扇屋では、あまりのおいしさに昼食に出た名物八女茶いわし甘露煮を買って帰る方が多くいらっしゃいました。有明漬本舗でのショッピングでは、お土産を物色する人たちで大混雑でした。分刻みのスケジュールでしたが、皆さんの満足された笑顔とお土産をたくさん乗せて帰路につきました。

1号車のみなさん



2号車のみなさん



書道教室「しゃぼん玉」市長賞受賞！

今年で8回目となる長崎市障害者アート作品展には市内の事業所や放課後児童デイサービス、学校、同好会、個人等から合計535作品の出品があり、長崎市立図書館・多目的ホールに展示されました。

どの作品もユニークで素晴らしいものばかりでしたが、審査の結果、7つの部門で計89作品が入賞し、長崎市手をつなぐ育成会書道教室「しゃぼん玉」のみなさんの作品が「書道の部」で最高賞である「市長賞」を受賞しました。「しゃぼん玉」のみなさん、おめでとうございます！

授賞式に参加出来てうれしかったです。これからも頑張ってお練習して、また授賞式に出たいです。
狩野祥子さん（あじさいの家）



おしらせ

習字

日時：第4土曜日

時間：午後1時～

場所：ハートセンター社会適応訓練室

会費：1回 500円



社会福祉法人

長崎市手をつなぐ育成会 広報部

長崎市大橋町 19-19

文教カテリーナ1F

Tel:095-845-5677

E-mail:tewotunagu@hi.enjoy.ne.jp

フラワーアレンジメント

日時：第2・第4土曜日 午前10:30～

場所：ハートセンター5F 社会適応訓練室 会費：1回1300円



おたのしみクラブ

日時：4月21日(日) 13時～15時

日時：5月12日(日) 13時～15時

内容：お花見 (¥300)

内容：母の日プレゼント作り (¥300)

*参加費300円と実費(カラオケ代、材料代など)は翌月請求させていただきます。

*人数把握のためにお申し込みをお願いします。お申し込み・お問い合わせは

ハートセンター事務局まで。 ☎:847-1290

※計画は変更されることがありますので確認をしてから参加してください。

会員定例会

5月の定例会は育成会ingでもお知らせしたケアホームさくらに増築されたショートステイ棟の見学を予定しています。(4月の定例会はお休みです)

日時：5月17日(金) 10:00～11:00

お申し込みはタイムケア事務局まで ☎095-845-5677

お祝いメッセージ募集!!!

育成会60周年の記念誌に掲載するお祝いメッセージを募集しています。絵や写真、文字など内容は自由です。育成会60周年をお祝いする自分らしいメッセージをお寄せください。

サイズ(厳守)：縦5cm×横7.5cmまたは縦5cm×横15cmまたは縦10cm×15cm

締め切りは4月26日(金)

提出・お問い合わせはタイムケア事務局まで ☎095-845-5677